

本州最北端
観光情報

大間わいどマツプ。

2020年改訂版

日本一のマグロの町

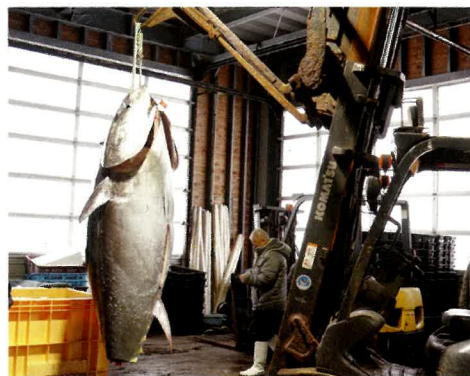


”大間まぐろ”のシールが誇りの印

黒いダイヤと呼ばれる津軽海峡のクロマグロ。通称「本マグロ」と呼ばれ、特にここ大間町で水揚げされた天然本マグロは最高級品。2007年には大間漁協によって出願された「大間まぐろ」が地域団体登録商標となり、出荷される30キロ以上のマグロには、ブランドの目印となる「大間まぐろ」のシールが、誇らしげに貼られています。シールには通し番号が入っており、どの船がいつ、どんな漁法で獲ったマグロかを厳密に管理しています。



一本一本の価値を最大限に



大間のマグロ漁は、例年8月から1月くらいまで。水温が低くなる秋から冬にかけて獲れるマグロは大型のものが多く、上質な脂がのっています。大間町が面する津軽海峡は、黒潮、対馬海流、千島海流の3つの海流が流れ込み、良質なプランクトンが溜まる地形。そこに集まるサンマ・イカなどを追いかけてマグロも溜まるのです。日中は一本釣り漁、夜間は延縄漁。マグロに傷を付けないよう一本一本を大切に水揚げし、魚が弱ってしまう前に血抜き生ズ作業を施す、資源保護につながる漁法なのです。

史上最高値は、一匹3億3360万円



大間で水揚げされるマグロは平均100キロ前後ですが、1994年には、440キロもの超大物が水揚げされ、大間崎にある「マグロ一本釣りモニュメント」のモデルとなりました。東京・築地市場での高値の起点になったのは、2001年の事。一匹2020万円の値が付いたことをきっかけに高値が続き、2013年には一匹1億5540万円の大間マグロが登場。ギネスブックにも認定され、もうこれ以上の高値はないと思われていた2019年の豊洲市場での初競り。とうとう3億3360万円のマグロの誕生に、世の中が騒然となりました。

「マグロを食べに行く町」になるまで

大間まぐろが獲れる漁師町として知られている大間ですが、かつて地元では、マグロは全く流通しませんでした。転機が訪れたのは2000年、大間のマグロ漁師の娘を主人公としたドラマ・NHKの連続テレビ小説「私の青空」が放送されたことがきっかけで、マグロの町・大間が全国のお茶の間にもまで知れ渡るようになりました。それに呼応し、マグロで大間を元気にしようとして立ち上がった有志によって、翌2001年からマグロ解体ショーを目玉にした集客の取組みがスタートし、町が一体となって地元・大間でマグロを味わってもらうための努力を積み重ねてきました。その努力が実を結び、今では「マグロを食べに行く町」となったのです。



大間まぐろは年中食べられます

マグロ漁の時期しか食べられない?…ご安心を。保存方法の向上により、大間まぐろは旬の時期に冷凍ストックされ、年中大間で食べられます。大トロ・中トロ・赤身の各部位を堪能できる寿司・丼ぶりは、シーズン問わずにご賞味いただけますよ。マグロの胃袋や皮を使ったおつまみ、目玉の鍋など、産地ならではの珍味も味わえます。



提供店については、
ホームページでご覧下さい。

★大間町観光協会HP
グルメページ



海の日在天妃様行列



日本と台湾が融合した、世界でここだけの神事

漁師町・大間を代表する神事が行われるのは、毎年、海の日。豊漁と海上安全の「お札入れ」を行う大漁祈願祭のあと、天妃様行列が町内を練り歩きます。天妃様は、台湾などで媽祖（まそ）と呼ばれている海上守護の女神。この異国の女神様の行列を、日本の神事である神楽や神輿が先導するのです。お神楽隊のお囃子が通り過ぎると、銅鑼の音に爆竹が響き渡り龍が踊る！「日本と台湾の融合文化」ともいえる風景は、世界でここだけなんです。

天妃様は、江戸時代から祀られていた！



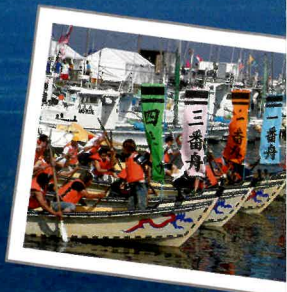
大間に天妃像を祀る祠（ほこら）が創建されたのは、1696年（元禄9年）の江戸時代。当時の名主であった伊藤五左衛門が、水戸藩那珂湊より遷座したという説が有力です。その後、明治に入ってから大間稲荷神社に合祀されました。遷座300周年となる1996年の記念祭から、大間での天妃様行列が始まりました。それまで30年近くも続いてきたマグロの不漁が、この記念祭の年をきっかけに豊漁へと一転。まさしく天妃様のご加護ではないか

よぐ来たの〜！よーぐ来たの〜！ いるんな元気に、出会っ



大間のイベント

3方を海に囲まれた大間町では、ブルーマリンフェスティバル、マグロ解体ショーなど、海を生かしたイベントが開催されています。



大漁祈願祭・天妃様行列

毎年海の日には海上安全と豊漁を祈願して行われ、色とりどりの魚旗で飾った漁船が海を進む姿はととても勇壮です。その行列を導きながら華やかな行列が町を練り歩きます。海上守護の「天妃様」が祀られているのは東北地方ではここ大間町だけ。



たの〜! てちよんだ〜い!



大間崎灯台
白黒のツ
大間崎灯
目の前、弁
れました。「
選ばれてい



大間のアート

大間町出身の彫刻家、向井勝寛さんが大間のこども達と製作した青森ヒバの彫刻「光の森」(2008年)が印象的です。大間小学校にて。



内山牧場と大間牛

海を見下ろす牧場では、黒毛和種の子牛が育てられています。最上位のA5ランクという評価を得たこともあり、新たなブランド化が期待されています。

弁天島
大間崎
約2万
知られて
ばれ、さ
たちに作

りの大
爆竹を
の女神
けです。



大間漁協荷揚げ場

年中通して、大間沖では様々な海の





大間埼灯台



弁天島



弁天神社

マグロモニュメント

マグロの町を象徴する巨大なマグロモニュメント。これは平成6年に水揚げされた440kgのマグロがモデルになっています。

ンカラーが印象的な、本州最北端大間崎の島に大正時代に建設された本島の灯台50選にも美しい灯台です。

約600m沖にある無人島。のカモメ類の繁殖地としています。かつては鳥居島と呼ばれ、から弁天様の島として漁師印されています。



大間崎

潮見町

鳥の間

大間町
勤労青少年ホーム

下手浜漁港

美島町

御宿かもめ

旅館うみかぜ

ビジネス民宿プラザ

体験型民宿葵

みちのくホテル大間亭

割石

朝日

ヒバ開発
カネマサ吉田商事
エネオスGS



石川啄木歌碑

石川啄木の有名な歌「東海の 小島の磯の 白砂に われ泣きぬれて 蟹とたはむる」が大間沖にある弁天島のことを詠んだものと考えられると、1998年にこの歌碑が建立されました。

本州最北端大間崎到着証明書

最果ての地に着いた記念にいかがでしょうか？観光案内所「大間崎レストハウス」にて発行いたします。



大間崎テントサイト

炊事棟やトイレも完備されているテントサイト。近くにはおみやげ屋さんや食堂もあります。（ご利用無料：閉鎖期間あり）

旧冷蔵庫（キュウレイ）

8月の「ブルーマリンフェスティバル」、
9～10月の「日曜日はマグロだDAY!」
などの会場として、多くの方で賑わいま
す。

会津斗南資料館・向陽処

会津藩士の末裔が140年間押入れ
に眠っていた斗南藩の資料を大公
開しています。



会津斗南藩資料館
向陽処

旧冷 ●

浜寿司

大間タクシー

お食事処馬い家

福寿司

大間

宮野甘盛堂

やき肉海楽

レッドアゲート

2F

モエ

さざ波

ろばた焼三平

1F

武

有貴

グリーンストア

聚

日鞠

正根商事

ローズ

はなみち

アンジュ

オニキス

漁港

● 大間町商工会
大間町観光協会



法香寺

阿弥陀寺

八大龍王殿

稲荷神社

- …飲食店
- …旅の宿
- …スナック
- …おみやげ店
- …その他

親富幸通り・友好通り

夜のお店が集まっています。元氣
で楽しいおねえさんがたがおもてな
ししてくれます。

西吹山展望台から見た函館の横夜景



期には、大物を仕留めた漁師の誇らしげな顔に出会えるかもしれません。

一休食堂

青い森信金



大間郵便局

青森銀行

あべ旅館



津軽海峡フェリー

大間町とおむかひの函館市を結ぶ海の玄関口として、なくてはならないライフラインです。

天気の良い日には、大漁旗を手に「よく来たの〜!」と旗振りウェルカム隊が出没するかも。

大間町立公民館



稲荷神社例大祭

毎年8月9～11日におこなわれ、稲荷丸・仁和賀山・大正山・弁天丸の山車が繰り出し、北前船の文化漂う祭囃子と威勢のよい「どっこ」が町に響き渡ります。

いそ舟寿司

寺川

津軽海峡フェリー



フェリー乗場前

サンホテル大間

オリックスレンタカー

海遊亭

炭火焼肉ホルモン

じゅじゅ

まぐる長宝丸

マエダストア前

消防署

とまと食堂



根田内

大間町
総合開町センター
大間町

上根田内



上根田内

竹正工務店漁業部

寺





-  …飲食店
-  …旅の宿
-  …スナック
-  …おみやげ店
-  …その他



大間温泉海峡保養センター
 本州最北端の温泉。ナトリウム・カルシウム等塩化物泉で、リウマチなどに効果があります。ご宿泊はもちろん日帰り入浴やお食事も楽しんでいただけます。

至佐井村
 ↓

歓迎
本州最北端の町大間町



三番坂



県営住宅前

ふるさと
物産センター

大間中学校
文

大間高校
⊗

そば・うどんの堺屋  

大間幼稚園



大間
ウイング前

  大間病院
大間病院前

至むつ市 →

北通り総合文化センター
ウイング

大間警察署 ⊗



北通り総合文化センターウイング
向井勝實さん作「森呼吸・家族」
(1999年)が出迎えてくれます。
青森県の木である「青森ヒバ」を
使い、大間町民も製作に参加しま
した。

西吹付山展望台


津軽海峡から北海道にいたる風景
を一望できます。
函館の夜景を横から眺める「横夜景
(よごやげ)」を楽しむならここ！



西吹付山展望台

畜産資料館



↓おおま宿坊普賢院 

200m

特産品

漁師町の心意気が詰まっている。
ちょっと贅沢を、おみやげに。



べこもち

やさしい甘さのある大間の伝統的なお餅。花びらのひとつひとつまで練り込んで、すべて手作りしています。かっちゃんたちが生み出す芸術品なのです。

昆布・海藻

津軽海峡の荒波に揉まれて育った昆布や海藻は、一級品。マグロに負けない自慢の特産品です。だし昆布はもちろん、スープやみそ汁などお手軽に味わえます。



大間スイーツ

マグロのDHAが入っている「マグロー筋ブッセ」は、チーズの甘しよっぱさがクセになります。大間スイーツはお土産品の定番です。



天然青森ヒバ

豊かな森は、豊かな海を作っています。抗菌作用や精神をやわらげる作用のある青森ヒバ。入浴剤や湯玉など、その天然成分を生かした商品で森を味わってみてください。

ご当地グッズ

「マグロー筋Tシャツ」は大間出身の泉浩選手がアテネオリンピック男子柔道90kg級に出場したのをきっかけに大ヒット。大間到着を記念して、大間ならではのお土産品をどうぞ。



ウニ・イカ・天然モズクなど加工品

大間沖のおいしさを、家庭でも味わっていただきたい！そんな思いがぎゅぎゅに詰まった加工品です。大間の地酒と、お寺で作った珍しい地ビールで、晩酌も進みます。



大間牛

(ステーキ肉などの精肉チルド品)
大間で水揚げされる本マグロの大口にも負けない最高等級のA5に評価される肉質も出ることから、地元では「陸(おか)マグロ」とも呼ばれています。



見どころ

気持ちいい風に吹かれて、
オーマの休日。

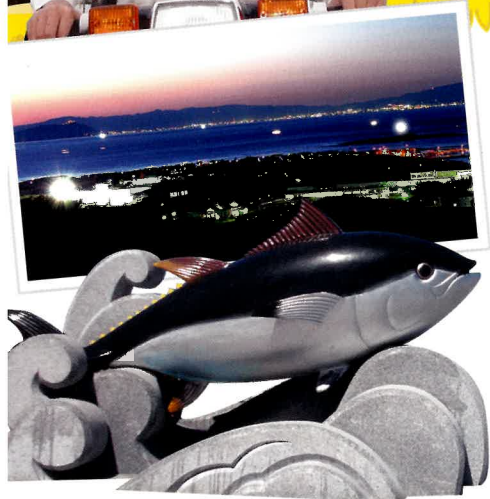


ここが本州最北端 大間崎

津軽海峡をはさんで函館市
汐首岬との距離は17.5キ
ロ。400キロ級のマグロのモ
ニュメントに乗って、記念写
真をパチリ!

大間漁港荷揚げ場で

運が良ければ、クレーンで
吊り上げられる巨大マグロ
に出会えるかも?
300キロの大物はすでに
怪獣?!



西吹付山展望台で朝やげタやげ横やげ〜

函館の夜景を「横」から見るから「横や
げい(横夜景)」。夜の闇とともにギラギ
ラと函館が輝きだすと、大間の漁師の
心もザワザワとしはじめるのです。

下北ジオパーク

ジオサイトである「大間崎」は、津
軽暖流と沿岸親潮という海流に
支えられ、豊かな魚介や海鳥が
生息しています。

大間崎から足をのぼして…

佐井方面へ車で約15分、大間町
奥戸地区の名所・景観があります。

赤石海岸

大小の奇岩が海中から突き
出して、独特の味わいがある
風景が楽しめます。特に夕暮
れ時がおすすです。



材木岩

江戸時代の紀行家、菅江真
澄がこの地を訪れたときの様
子を『牧の冬枯れ』に記してい
ます。昔はここから石を切り出
して、建物などに利用していた
そうです。



津鼻崎

スカシユリの群生地。石英安
山岩の柱状石になっている岬
の景観にご注目。遊歩道で楽
しめます。



アクセス



大函丸
津軽海峡フェリー
大間ー函館 90分



飲食店・旅の宿・おみやげ店などの情報は、こちらでチェック！
食べて、泊って、“大間ならではの”を味わってちょんだ〜い！

大間の観光情報サイト大間わいどアップ
📄 二次元コードを読み取ってアクセス！（<http://oma-wide.net/>）

SNSで情報発信中！

omakanko 大間わいどアップ速報版 @oma_kanko 大間町観光協会

発行：大間町観光協会 TEL:0175-37-2233 FAX:0175-37-2234
〒039-4601 青森県下北郡大間町大字大間字大間 99

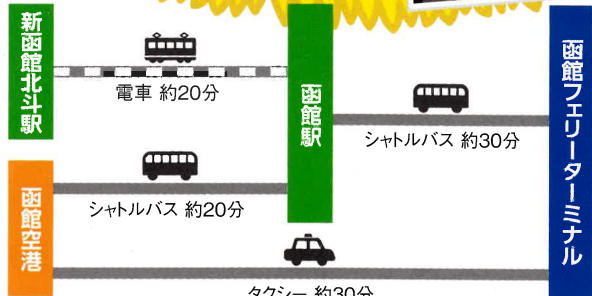
ガイド 函館からわずか90分！ 大間への道のり、まとめました。

大間町の公式キャラクター
「かもまーる」です♪
どこかで会える…かも？

よぐきたの一！



◆函館方面から大間へ



函館フェリーターミナル



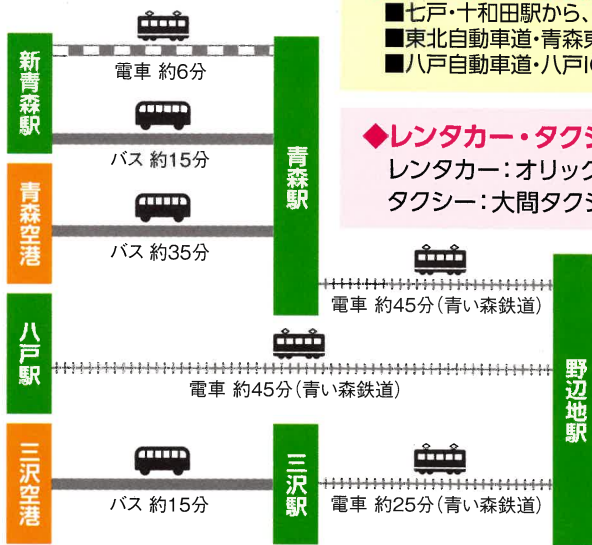
津軽海峡フェリー(大函丸)90分

●大間～函館のフェリー「大函丸」
※季節によりダイヤが変更されます。
詳しくは
津軽海峡フェリー(株) 大間支店
☎0175-37-3111

大間フェリーターミナル

●函館市内各地と函館フェリーターミナルを結ぶ定額タクシー
ご予約・お問合せ先：函館タクシー ☎0138-51-0168

◆青森方面から大間へ



◆車での所要時間(目安)

- 七戸・十和田駅から、車で約2時間30分
- 東北自動車道・青森東ICから、車で約3時間
- 八戸自動車道・八戸ICから、車で約3時間

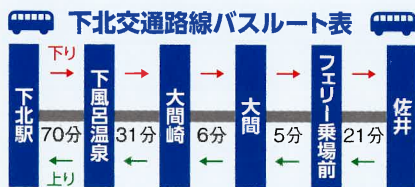
◆レンタカー・タクシーの情報

レンタカー：オリックスレンタカー ☎0175-32-1555
タクシー：大間タクシー ☎0175-37-2213 (☎0120-402-213)



●むつ市→大間の路線バス

※曜日・季節によりダイヤ変更があります。
詳しくは下北交通 ☎0175-23-3111
※大間方面へは路線「佐井線・下り」にご乗車ください。
※大間崎へお出かけの場合は「大間崎」で、津軽海峡フェリーご利用の方は「フェリー乗り場前」でご降車下さい。



下北交通路線バスルート表

下北駅	下風呂温泉	大間崎	大間	フェリー乗場前	佐井
70分	31分	6分	5分	21分	
下り	→	→	→	→	
上り	←	←	←	←	